

## 2024 年度 総合政策学部 FD 活動方針・活動計画

### ① 2024 年度総合政策学部 FD 活動方針

今年度の FD 活動の方針は、教学マネジメントの深化に向けた、三つの観点からの議論としたい。

『教学マネジメント指針』によれば、FD は、教学マネジメントを支える基礎の一つである。指針では、学修成果・教育成果の把握・可視化として、「一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DP の見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多元的に学修成果・教育成果を把握・可視化」することが求められている。

しかし、学修成果は、筆記試験の得点のように数値化しやすい側面もあるが、数値化しがたい側面もある。とりわけ、総合政策学部には様々な学問領域にまたがっており、数値化したいも複雑化せざるをえない。そうした中で、(1)総合政策学部における多面的な学修成果とはどのようなものであるか、(2)明らかにされた学修成果はどのような数値により把握されるべきか、(3)数値化された学修成果の分析が必要である。

また、足下では、学修の傾向にも変化がみられる。Nanzan Asia Program (NAP) を軸とする国際プログラムだけでなく、国内プログラムにも人気が集まり、より高い学修成果が求められている。これらの政策実践科目については、カリキュラム改正 WG の一環として、教授会後に懇談会（4月24日予定）にて改正案が示される方向で進めている。そこで、教学マネジメントに向けた学修成果の議論には、改正案の内容を盛り込みたい。

### ② 2024 年度総合政策学部 FD 活動計画

上記1活動方針に基づいて、以下の項目に取り組んでいく。

1. 上記(1)に関して、Q2 までに 2024 年度のプロジェクト研究の選考過程が明らかとなる。プロジェクト研究では、国際、環境、公共の各政策コースが選択されることから、総合政策学部の多面的な学修成果についてあらためて整理する契機となる。そのため、研修会を開催し意見を集約したい。
2. 上記(2)・(3)に関して、2024 年度中に研修会を開催したい。その内容は、総合政策学部の多面的な学修成果を明らかにできるエビデンスを収集し、可視化することである。これについて、現在、「能力版の DP」の検討を進めているところである。その進捗に応じてカリキュラム MAP の作成が必要となるため、適当な時期を見極め開催したい。

### 資料

文部科学省『教学マネジメント指針』、令和2年1月22日、中央教育審議会大学分科会、(<https://www.m>

[ext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360\\_00001.html](http://ext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html)。